



発行所

中外日報社
〒605 京都市東山区
一橋宮ノ内町4
電話 (075) 531-0151
編集局 531-4599
印刷局 531-0460
経理部 京都 3-1595番

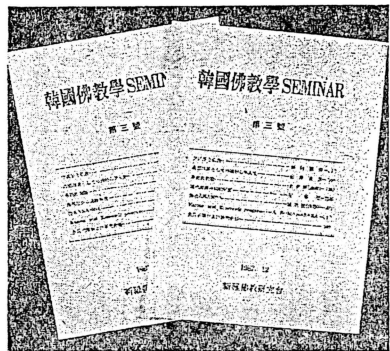
東京本社 〒113
東京都文京区本郷4丁目9の13
電話 (03) 816-4721
経理部 東京 1-62477番
広島支社 〒730
広島市中区大手町1丁目1番26号
大手町一丁目丸の内
電話 (082) 243-7211
大阪支社 〒530
大阪市北区豊崎野新地1丁目5
の15 千成ビル4F
電話 (06) 341-2319
名古屋支社 〒460
名古屋市中区丸の内1丁目11-27
ライオンSM丸の内5-532
電話 (052) 222-3996
釜山支局 〒608-011
釜山南区分川洞69-6
Foreign Office 51-101
電話 (51) 621-3141
台北通信部
台北市長明街320番2-11号
電話 (02) 306-6640
購読料(送料共)6ヵ月17,400円
1ヵ年34,800円

『韓国佛教学 SEMINAR』 第3号 新羅佛教学研究会編 留学生の研究成果発表

権威者たちも論陣

田村・九大名誉教授ら

日本で仏教を研究している 名誉教授・田村圓登氏(九州 学を終る帰国した人たちは 在任期間でも退任し、新たに 韓国人留学生にも組織され 歴史資料館長)一文と七仏 名譽會となり、その数は一 金漢益氏(駒沢大学)が第五 代会長に選ばれた。 金会長はこの論集を続け ている事の報告になるし、お 世話になった方への御恩返し にもなる」と語っている。 同研究會は一九八五年十二 月 学術論集の第一号を発行、崔康燾(法名・淨印) 刊、以来、毎年一冊のペースで「ANANDA」で自分たちの研究成果を発表 している。 師 A. S. ナナサーナ氏(Ka- 執筆を依頼して紙面を飾って いる。 同研究會は一九八五年十二 月 学術論集の第一号を発行、崔康燾(法名・淨印) 刊、以来、毎年一冊のペースで「ANANDA」で自分たちの研究成果を発表 している。 師 A. S. ナナサーナ氏(Ka- 執筆を依頼して紙面を飾って いる。 同研究會は一九八五年十二 月 学術論集の第一号を発行、崔康燾(法名・淨印) 刊、以来、毎年一冊のペースで「ANANDA」で自分たちの研究成果を発表 している。



発行された『韓国佛教学 SEMINAR』第3号

同研究會は一九八五年十二 月 学術論集の第一号を発行、崔康燾(法名・淨印) 刊、以来、毎年一冊のペースで「ANANDA」で自分たちの研究成果を発表 している。 師 A. S. ナナサーナ氏(Ka- 執筆を依頼して紙面を飾って いる。 同研究會は一九八五年十二 月 学術論集の第一号を発行、崔康燾(法名・淨印) 刊、以来、毎年一冊のペースで「ANANDA」で自分たちの研究成果を発表 している。

編集後記

今号を出版するに当っては、多くの難問がありました。会員の皆様の御協力と編集委員の惜しみない御尽力によって、出版のはこびとなりました。ことを全会員と本研究会を御支援下さる方々と共に喜び申し上げます。

特に中村 元博士、西村公朝先生、木村清孝博士、金 知見博士には玉稿をお願い致しましたところ、公私ともに御多忙にもかかわらず早急に貴重な玉稿をお寄せ頂き本号を飾って下さいました。その御好意に対しまして私共全会員は甚深なる謝意を表すものでございます。

また中村元東方学院院长をはじめ、多くの方々からお励ましの言葉を頂戴いたしました。私共は一層力を尽くすことができ、これを今後の活動の原動力にさせて頂く所存でございます。

微力のため出版費捻出に苦慮しておりましたところ、既述の御芳名の諸先生方より有難い浄財の御支援を賜わりまして、ここに難問の最たるものが解決に至ったのでございます。そして、かかる難問題と非常に面倒なことが山積しているにもかかわらず、心よく出版をお引受け下さり、惜しみない御尽力をいただきました。山喜房佛書林社長、浅地康平様に厚く御礼を申し上げます。

最後に、編集の都合によりまして今号の出版が大幅に遅れましたことを深くお詫び申し上げます。これらに関する一切の責任は編集代表者である釋 悟震(金漢益)にあることを明示いたします。

会長 釋 悟震(漢益)